



「奇跡」の子どもたちとともに

校長 渡辺 隆

この1年、皆様には、当校の生徒を温かく見守っていただき、ありがとうございました。おかげさまで、子どもたちは、毎日の生活を通して、「人を思いやる心」、「困難に負けずがんばり抜く力」などを身に付け、その成長ぶりは、見ていて感動を覚えるほどです。皆様のお力添えに、心から感謝申し上げます。

2学期の子どもたちは、体育祭、チャレンジウォーク、音楽祭など、大きな行事をステップにして、飛躍を繰り返してきました。この「青中だより」の9～11月号には、子どもたちのその様子を載せ、皆様にもお知らせしたところです。彼らの見せてくれるいろいろな出来事や、彼らが表現する言葉や文章は、しっかりと私の「思い」を受け止め、それを実現してくれた証です。

「想定外」という言葉があります。常識に縛られた私のような者にとって、彼らの駆けあがっていくような変貌ぶりは、「想定外」を通り越し、「奇跡」と表現せざるを得ないときがあります。

天気予報で「雨マーク」だった体育祭も、当日は晴れました。チャレンジウォークも音楽祭も、その前後は降っていましたが、その日その時だけ、ちゃんと晴れました。おそらく3回続いた偶然です。でも、彼らのそれまでの本当に頑張っていた様子を知っている私にとって、神様が、彼らの努力に答えてくださっているとしか思えないのです。

間に合わないと思っていた演技が、無理だと思っていた演奏が、できないと思っていた行動が、何度も目の前で現実となる瞬間が繰り返されるとしたら、私は、これらを「奇跡」と呼ぶしかないのです。

東日本大震災など、これでもかという苦難が続いた平成23年。しっかりした気持ちをもたないと、心が折れてしまいそうな年でした。そんな私でも、「奇跡」の子どもたちと一緒にいると、頑張ろうという気持ちが膨らんできます。たとえ年齢を重ねていても、今より向上したい、もっと成長したいと願う気持ちは、とても大切だと思います。

まもなく、新しい年を迎えます。私も子どもたちとともに、「もっと素晴らしい青中」の夢を描きたいと思います。皆様、来年こそ、よい年になりますように。

